

聴覚障害者の心理

単位数	履修方法	配当年次
2	R	3年以上



科目コード **EE4725** 担当教員 **大西 孝志**

※2017年11月20日までに履修登録し、2019年3月までに単位修得してください。

※2014年度までの入学者と、2015年度2・3年次編入学者・科目等履修生、2016年度4月生3年次編入学者のみが履修登録可能です。

■科目の内容

本科目では、聴覚障害児・者の心理を理解し、適切な支援をしていくために必要な基礎知識を得ることを目的とします。聴覚障害には、聴力障害だけではなく耳鳴や補充現象など、さまざまなものが含まれますが、この科目では聴力障害について扱うこととします。

まず、聴覚障害がもたらす聞こえの世界がどのようなものであるのか、そしてその障害によりどのような制約が生じ得るのかを学びます。そして、その制約が、言語発達や認知発達、社会性の発達にどう影響するのか、また、社会生活上どのような支障があるのかを考えます。

聴覚障害児・者が抱える問題は、必ずしも障害の程度に起因するものだけではなく、社会システムや、周囲の人々の理解や対応方法等に起因するものもあり、それらの改善により、変化する可能性があります。そのような視点から、支援のあり方について自ら考える力を養ってほしいと思います。

■到達目標

- 1) 聴覚障害児者の心理を多角的に説明できる。
- 2) 聴覚障害者の気持ちに寄り添った支援ができる。
- 3) 聴覚障害者のコミュニケーション手段について説明できる。

■教科書

中野善達・吉野公喜著『聴覚障害の心理』田研出版、1999年

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	聴覚のはたらき (第1章)	聴覚器官の仕組みとその働きを知る。 また、聴覚と音声について知る。 キーワード：外耳、中耳、内耳、ことばの鎖	音声言語を聴いて理解したり、表出したりするという一連の聴こえと話し言葉の関係について、ことばの鎖を基に考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
2	ろうの世界 (第2章)	ろう, 難聴, 中途失聴の意味を確認する。 キーワード: ろう, 難聴, 一次的障害, 二次的障害, 中途失聴	聴力障害の程度や失聴の時期によって、支援の方法が異なります。また、聴力障害という一時的障害よりも、それに起因する二次的障害の方が問題が大きいたことが良くあります。それらの点について整理して考えてみましょう。
3	ろう者の心 (第2章)	コミュニケーション手段との関連から、ろう者の心について考える。 キーワード: 純口話法, 読話, 聴覚口話法, 手話	社会で生活していく上でコミュニケーションは重要です。聴覚障害者にとって、どのようなコミュニケーション手段があるのか、考えてみましょう。
4	聴覚障害児の知的発達 (第3章)	聴覚障害が知的発達に及ぼす影響について考える。 キーワード: 90%ルール, 知的発達	聴覚障害が知的発達, 記憶, パーソナリティの形成にどのような影響を及ぼすのか、考えてみましょう。
5	聴覚障害児の認知発達 (第4章)	聴覚障害児の認知発達の特性について知る。 キーワード: 認知発達, ピアジェ理論, 9歳の峠	教科書にある様々な事例や研究による知見をもとに、聴覚障害児の認知発達について考えてみましょう。
6	聴覚障害児の言語発達 (第5章)	聴覚障害児の言語発達の特性について知る。 キーワード: 言語発達, 前言語	聴覚障害が言語習得やその後の言語発達にどのような影響を及ぼすのか考えてみましょう。
7	社会性の発達 (第6章)	子どもの一般的な社会性の発達について知る。 キーワード: 社会性, 対人関係能力, 道徳性	幼児期, 児童期に分けて考えてみましょう。
8	聴覚障害児の社会性の発達 (第6章)	聴覚障害児の社会性の発達について知る。 キーワード: 親子関係	乳幼児期における親子関係を通しての社会性の発達は特に重要です。
9	パーソナリティとは (第7章)	一般的なパーソナリティについて知る。 キーワード: パーソナリティ	性格やパーソナリティについては、心理学関連の文献で多く出ていますので、他の文献も参考にしながら学習してください。
10	聴覚障害児のパーソナリティの形成 (第7章)	聴覚障害児のパーソナリティ形成について知る キーワード: パーソナリティの形成	幼児期, 児童期, 思春期, 青年期に分けて考えてみましょう。
11	ジェスチャーと手話 (第8章)	ジェスチャーと話し言葉, 手話, それぞれについて知る キーワード: ジェスチャー, 手話	ジェスチャーと手話の類似点, 相違点について整理してみましょう。
12	ろうとコミュニケーション (第8章)	ろう者のコミュニケーション手段について知る キーワード: 手話	ジェスチャー, 手話, ホームサインについて整理して考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
13	ろうと文化 (第9章)	ろう文化とデフコミュニティについて知る キーワード：ろう文化, デフコミュニティ	デフコミュニティとは何か、また、それはどのような役割を果たしているのか、考えてみましょう。
14	心の成長とアイデンティティの獲得 (第9章)	障害受容と心理的成長について知る キーワード：アイデンティティ	聴覚障害児の成長において、アイデンティティの獲得は重要です。教科書に掲載されてあるアイデンティティ質問票の質問項目は、聴覚障害者のアイデンティティについて考える参考になります。
15	ろう者の職業選択 (第10章)	聴覚障害者の職業選択と職場適応、そして家庭生活について考える キーワード：職業選択, 職場適応	聴覚障害者の職業選択や職場適応にはどのようなサポートが求められるか、また、QOLをどのように高めていったらよいか、考えてみましょう。

■レポート課題

1 単位め	課題1・2の両方について解答してください。 課題1 教科書の第1～5章を熟読し、聴覚障害児の知的発達、言語発達について1,200字以内でまとめてください。 課題2 あなたが健聴者である場合、耳栓をして難聴の擬似的状況を作り、1時間程度、住居の中で過ごしてみてください（事故防止のため、耳栓をしたままでの外出はしないでください）。そして、難聴であることの心理的影響、コミュニケーションへの影響、自分の行動面の変化等、気づいたことを書いてください。 また、あなた自身が難聴者である場合は、日常、難聴であることに起因していると思われる心理状態、コミュニケーションへの影響、行動の特徴等、気づいたことを書いてください。 いずれの場合も800字以内でまとめてください。
	2 単位め

■アドバイス

まず、レポートを書き始める前に、教科書全体を読み通してください。聴器の機能・構造に関する基礎的事項や聴覚障害については、参考図書や他の文献等も参考にして理解を深めておいてください。そして、各課題に取り組む際には、教科書の該当部分を精読するとともに、アドバイスにしたがってまとめてください。

聴覚障害者のさまざまな能力の発達や心理については、聴覚障害という障害特有の特徴も考えられる一方、基本的には健聴児・者の発達や心理がベースとなっており、両者に大きな違いや隔たりがあるわけではありません。つまり、聴覚障害児・者を理解する際には、まず、健聴児・者の発達や心理を理解しておく必要があります。聴覚障害者の心理を学ぶにあたって、発達心理学やその他の心理学全般についても興味をもち、さまざまな文献を通して学んでおいてほしいと思います。また、聴覚障害児・者と接する機会のある人は、ぜひ、積極的にかかわり、そこから多くを学んでください。

なお、レポートを作成するにあたり、指定の教科書や参考図書以外にも参考にした文献がある場合は、レポートの最後にその文献の著者名、書名、出版社、出版年を忘れずに書いてください。また、教科書やその他の文献の文章をそのままレポートに記述することは避け、自分なりの表現に直して書いてください。やむを得ずそのまま引用する際には、引用箇所をかぎ括弧で括るとともに引用文献を明記して、必ず引用であることがわかるようにしてください。

1単位め 課題1 アドバイス

聴覚障害児の知的発達にはどのような特徴があるのでしょうか。また、聴覚障害児の知能を測定するためにはどのような検査方法があるのでしょうか。

聴覚障害児の言語発達にはどのような特徴があるのでしょうか。前言語的コミュニケーション、音声・構音の特徴、話しことばの発達、読み書き能力の発達に分けてまとめてみましょう。

1単位め 課題2 アドバイス

実際には、耳栓をして音が小さく聞こえる状態イコール難聴の状態、というような単純なものではありません。難聴の種類にもよりますが、たとえ音が聞こえてもその音は歪んで聞こえるため、何の音なのか弁別することが難しいという問題があります。そのため、残念ながら耳栓の使用だけでは本当の意味での難聴疑似体験とはいえないということを踏まえておいてください。

2単位め アドバイス

(1)聴覚障害児は乳幼児期には親子関係において、また、幼児期、児童期には集団生活における子ども同士の関係において、コミュニケーションの取りにくさからつまずきのあることがあります。そのような制約下において、社会性の発達にはどのような問題があるのか、また、それらはどのように克服されていくのか、教科書をよく読むとともに、自分なりに考えてみてください。

(2)聴覚障害児において、コミュニケーションの障害がパーソナリティの形成にどのような影響があるのか、教科書をよく読み、考えながらまとめてみましょう。

(3)ろう文化とアイデンティティの獲得について、まとめてください。特に、アイデンティティの獲得については、教科書だけではなく、発達心理学関連の文献も参考にしてください。

■科目修了試験 評価基準

内容理解・説明ができていようかが評価の前提となるが、いずれの問題も教科書を基に出題しているので、教科書全体の内容を理解しているかどうか、評価のポイントとなる。十分に教科書を熟読した上で試験に臨むこと。試験においては解答者自身の経験に基づく個人的な意見や感想を求めているのではないので注意すること。

なお、成績評価においては、レポート25%、試験75%によって総合的に評価をする。

■参考図書

永渕正昭著『聴覚と言語の世界（改訂版）』東北大学出版会、2002年